令和２年度使用教科用図書調査に関する合同報告会議事録（第１日）

１　開会

２　開会あいさつ

３　協議事項

令和２年度使用小学校用教科用図書加印地区共同調査員会からの報告及び質疑応答

⑴　社会

①　班長からの報告

②　質疑応答

委員：明治に入ってからの太政官布告についての記述が３社で少し違いがあったが調査員会で何か協議されたのか。

班長：とくに大きな違いとして認識しておらず、取り上げなかった。

委員：解放令と書いている教科書と、書いていない教科書があるが、このことについてどのような話し合いをしたのか。

班長：とくに話し合っていない。

⑵　地図

班長からの報告

⑶　理　科

班長からの報告

⑷　生　活

①　班長からの報告

②　質疑応答

委員：ウェビングやＸチャート、Ｙチャート、KJ 法などの言葉が出てきた。使う教科書によっては若い先生の負担になることが予想されるが、調査員会では話し合ったのか。

班長：若い先生方のほうがよく経験している学習法なので、使いやすいと思う。

⑸　体育（保健）

班長からの報告

⑹　音楽

①　班長からの報告

②　質疑応答

委員：技能の習得について伺いたい。鍵盤ハーモニカの導入の指導が２社に大きな違いがある。教育出版は早い時期から「トゥ、トゥ、トゥ」のように息を吹く指導が行われている。一方の教育芸術社については、最初はそれが無く、途中で鍵盤ハーモニカは息を出し続けながら、舌で音を区切る吹き方がある、と提示されて初めて「トゥ、トゥ、トゥ」の指導が出てくる。この件に関して、調査員の先生方はどのような意見であったか。

班長：教育出版は「どんな音がするのかな」「息の強さを変えてみよう」「いろいろな動物の鳴き声をまねてみよう」ということで、鍵盤を押さえながら、吹き口から息を吹き込むということに焦点を当てている。また、教育芸術社については、長く伸ばす音、強い音のようにどんな強さで吹こうかな、ということに焦点を当てている。どちらの教科書についても、それぞれの思いを持って作成されている、ということを調査員会では話し合った。

委員：３年のリコーダー学習のタンギングに繋ぐという意味では、教育出版は「トゥ、トゥ、トゥ」とタンギングを意識した鍵盤ハーモニカの指導法である。このことについて、２社に違いがあるが、どのような意見が調査員会で出たのか。

班長：リコーダーについてもそうだが、教科書全体を通して見ても、教育出版は音楽的な面で高い目標値を求めていると感じる。教育芸術社は、表現を含め、色々な場面で子どもたちがまず音楽を好きになることに重点を置いた作りになっていると話し合った。教育芸術社は鍵盤ハーモニカについても、まず音を出してみよう、というところから始まっている。他方、教育出版はタンギングを意識しながら演奏する、というように２社それぞれ違いがあると、調査員会で確認した。

⑺　外国語

①　班長からの報告

②　質疑応答

委員：１つ気になったことがあるので、調査員会の見解を聞きたい。「When is your birthday？」に対する答えの文が、三省堂のCROWNだけが、前置詞の「on」を用いて、「My birthday is on April twenty second.」としている。この点について、どのような協議をしたのか教えてほしい。

班長：このことについては、調査員会では話題に上らなかったが、同様の細かな違いが各社で見られた。複数形や前置詞の扱い等が各社で少し違う。文法に関

する細かなことを話し合う時間は、調査員会ではとれなかった。

委員：「５年生で覚えたい表現」という巻末部分にも、「My birthday is on~」が出てくる。気になって複数の英語の先生に尋ねたところ、これは間違いであるということであった。教科書会社で教科によっては訂正をしている場合もあるが、この件については、三省堂は訂正していないので、大きな問題ではないかと考えて発言したところである。

班長：訂正があったかどうかはわからないが、他社にもいくつか同様のことがあった。

委員：様式１の報告書のうち、東京書籍と光村図書に記載されていた４線に関する内容について伺いたい。第２線と第３線の間が広く取られているが、現在使用している「We can！」でもやや広く取られている。他社も若干広めに取られている。報告書の評価には、「４線の真ん中が広いために、字形が崩れることが懸念される」と報告されているが、「We can！」が作成された際にも、一定の配慮があってのことであろうと思う。例えば、英語を学び始めたばかりの子どもたちにとって、文字とくに小文字を認識しやすくしたり、４線のうちに文字を収めやすくしたりするための配慮であり、「We can！」の後ろの説明書きにも、このことは書かれている。調査員会では報告書に書かれていること以外にどのようなことが話し合われたのか教えてほしい。

班長：何人かの調査員が４線の間隔について議題に出した。各自が持ち帰って、調べたり、ペーパーを読んだりした中で、「We can！」で使われていたけれども、真ん中だけが広いことはやがて中学校で学ぶことを考えた時に、文字の認識にズレが出たり、文字の形が崩れたりすることが危惧されるという話になった。外国語活動から外国語科となるにあたっては、もう少し間隔を狭めている他社のほうがよいのではないかという、調査員会の一致した意見になった。

4　連絡事項

5　閉会